



令和3年度 男女共同参画センター等の管理者等との情報交換会

男女共同参画の視点からの防災の取組

令和4年2月

内閣府男女共同参画局総務課

最近の国の動き

令和 2 年

7月 上旬 「7月豪雨」時に内閣府調査チームの一員として初めて男女局職員を熊本に派遣

12月25日 第5次男女共同参画基本計画の策定
(第8分野 防災・復興、環境問題における男女共同参画の推進)

令和 3 年

5月17日 「災害対応力を強化する女性の視点」実践的学習プログラム公表
(「防災女子の会」からの提言 小此木防災担当大臣(当時)に手交)

5月25日 中央防災会議

- 委員(閣僚を除く)に占める女性の割合を11%から33%に拡大
- 防災基本計画の修正にて、①地方防災会議への女性の参画拡大、②災害時の性暴力・DV防止に係る取組を追加
- 中央防災会議幹事会に男女共同参画局長、主事会に男女共同参画局総務課長を追加

6月11日 丸川男女共同参画担当大臣と小此木防災担当大臣の初の連名による
メッセージ『女性の視点からの防災・減災の推進について』の公表

7月 災害時における男女共同参画センター等の相互支援ネットワーク
(相互支援ネット) 運用開始

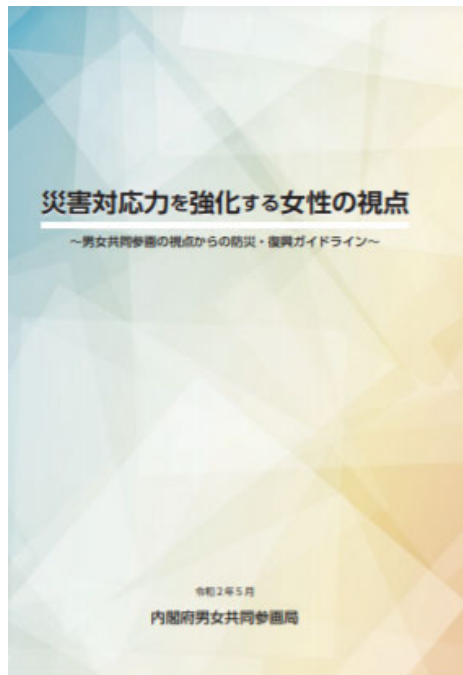
7~8月 今出水期における特定災害対策本部に男女局長が本部員として出席

11月 「ぼうさいこくたい」にて「集まれ! 防災女性職員とその応援団」を主催

災害対応力を強化する女性の視点

～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～ (令和2年5月)

都道府県・市町村の防災・危機管理担当部局、男女共同参画担当部局が、女性の視点からの災害対応を進める際に参照できるよう、基本的な考え方、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階において取り組むべき事項を示すもの。



協働に取り組むべき事項 避難生活
 取組主体: 都道府県 市町村 男女共同参画センター 市民団体

26 避難所の生活環境の改善

- 避難所チェックシートを活用し、女性と男性のニーズの違いにきめ細かく対応できているか、継続的に確認する。
- 女性職員や女性の応援職員、男女共同参画担当部局や男女共同参画センターによる巡回指導を行う。
- 男女共同参画担当部局や男女共同参画センターは、女性団体等と連携を図りながら、様々な女性の不安や悩みの相談対応を行う。

<女性の視点に立った避難所となるように>
 避難所開設当初から安全対策を行い、女性の視点から生活環境の改善に取り組んでおく必要があります。避難所運営には女性職員も配置し、避難している女性の声をくみ上げる体制を作る、女性の専門職の協力を得るなどの対応により、支援の質が高まることが期待されます。◆第3部 避難所チェックシート

<避難所キャラバンで環境改善>
 被災自治体の男女共同参画センターや男女共同参画担当部局が「避難所キャラバン」を実施し、避難所チェックシートをもとに、運営管理者や入所者に個別ヒアリングを行い、改善を促すことが有効です。
熊本県男女共同参画センターはあもにの「避難所キャラバン」の取組では、居住環境については、避難所によっては差があるものの、プライバシーに配慮するため、段ボールやドーム型テントなどを設置し、安心して着替えたり授乳したりできる避難所も少しずつ増えていきました。一方で、死角があるために、体調不良やトラブルなどを見つけづらいという意見もあり、扉間は間仕切りのカーテンを開けて安否確認や危険防止に努める工夫もされています。また、こうしたキャラバンにより、女性用品の配布方法の見直しも行いやすくなります。
 生活環境の変化により、女性が様々な不安や悩み、ストレスを抱えるようになることから、保健師による健康確認の際に不安や悩みについても簡単に聞き取りを行い、男女共同参画センター等の相談窓口や社会福祉協議会などにつなげることは有効と考えられます。

保健師による健康確認
(九州北部豪雨の被災市の事例)

配布方法の見直し
(熊本市の事例)

30 熊本県男女共同参画センターはあもにの「平成28年度 避難所キャラバン報告書」

便利帳

避難所チェックシート

確認日: _____ 確認者: _____

① 避難所のスペース	
プライバシー	<input type="checkbox"/> 授乳室（椅子、授乳用の枕やクッション、おむつ替えスペース）がある <input type="checkbox"/> 男女別更衣室、男女別休養スペースがある <input type="checkbox"/> 男女別更衣室、男女別休養スペースが離れた場所にある <input type="checkbox"/> 間仕切り・パーティションがあり、その高さや大きさなどが、プライバシーの保護の観点から、十分である
要配慮者	<input type="checkbox"/> 適切な通路が確保され、段差が解消されている <input type="checkbox"/> 乳幼児がいる要配慮エリアがある <input type="checkbox"/> 介護・介助が必要な人のためのエリアがある <input type="checkbox"/> 単身女性や女性のための世帯用エリアがある <input type="checkbox"/> 女性専用スペース（女性用品の配置・女性相談）がある <input type="checkbox"/> キッズスペース（子供たちの遊び場・勉強・情報提供）や保育エリアがある <input type="checkbox"/> 定数が多い人のための寝具（保ポルベッド等）が提供されている
トイレ	<input type="checkbox"/> 安全で行きやすい場所に設置されている <input type="checkbox"/> 女性トイレと男性トイレは離れた場所にある <input type="checkbox"/> 女性トイレ：女性用品・防犯ブザーの配置、仮設トイレは女性用を多め <input type="checkbox"/> 男性トイレ：尿取りパット等の配置 <input type="checkbox"/> 多目的トイレが設置されている <input type="checkbox"/> 洋式トイレが設置されている <input type="checkbox"/> 屋外トイレは雨が降りにならない場所に設置されている <input type="checkbox"/> トイレの個室内、トイレまでの経路に夜間照明が設置されている <input type="checkbox"/> トイレに錠がある
入浴施設	<input type="checkbox"/> 安全で可能な限りバリアフリーに対応した入浴施設がある <input type="checkbox"/> 男女問わず一人で（又は付き添いを受けながら）入浴できる施設がある
安全	<input type="checkbox"/> 避難所の危険箇所や死角となる場所の把握・立入制限がされている <input type="checkbox"/> 間仕切り・パーティションが高い場合は個室の定期確認がされている
その他	<input type="checkbox"/> 各部屋に部屋札（ピクトグラム、やさしい日本語）が設置されている <input type="checkbox"/> 掲示板による情報提供（インターネットが使用できない人・情報が届きにくい人向け）がされている

57

「災害対応力を強化する女性の視点」実践的学習プログラム

(令和3年5月)

ガイドラインの内容に基づき、自治体職員の皆様が、災害の各段階において女性の視点から取り組むべきポイントや事例を学び、実践していただくことを目的としています。

印刷・投影用スライド教材のほか、動画教材もあり、研修や勉強会、防災・男女共同参画関連のイベント等、様々な機会に活用できます！

プログラム構成		タイトル
セッション1 (約30分)	座学 (動画あり)	防災になぜ男女共同参画の視点が必要か
セッション2 (約50分)	座学 (動画あり)	災害対応力を強化する女性の視点
セッション3 (約75分)	ワーク ショップ	男女共同参画の視点から防災の取組を実践する
+ 自治体・男女共同参画センター・市民団体の取組事例集あり		

ダウンロードはこちら↓

<https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html>

19 「避難所の開設・運営」の取組ポイント ガイド
P.34

取組主体： 都道府県 市町村 男女共同参画センター 市民団体

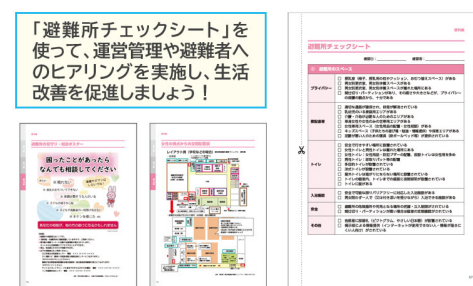
- 管理責任者に、**女性と男性の両方を配置**する。
- 避難者の自治的な運営組織に、**女性の参画を促す**。
- 「**避難所チェックシート**」を活用し、巡回指導を行う。
- 避難所の生活ルール作りを行う際には**女性の意見を反映**する。
- リーダー、食事作りや片付けなど、特定の活動が特定の性別に偏るなど、**役割を固定化しないよう**配慮する。
- 避難者名簿に個人情報の開示・非開示についての本人確認の欄を設け、**個人情報の管理を徹底**する。

19

ガイドライン「避難所チェックシート」の活用 ガイド
第3部

第3部の「便利帳」には、平常時・災害時に活用できる情報が掲載されています

「避難所チェックシート」を使って、運営管理や避難者へのヒアリングを実施し、生活改善を促進しましょう！



22

<平成28年熊本地震>

好事例 熊本市男女共同参画センターはあもにい ガイド
P.43

全国の男女共同参画センターからの情報をもとに、地震発生直後から**避難所キャラバンを開始**

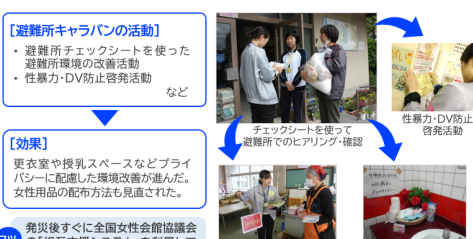
【避難所キャラバンの活動】

- ・ 避難所チェックシートを使った避難所環境の改善活動
- ・ 性暴力・DV防止啓発活動 など

【効果】

更衣室や授乳スペースなどプライバシーに配慮した環境改善が進んだ。女性用品の配布方法も見直された。

発災後すぐに全国女性会館協議会の「相互支援システム」を利用して、全国の男女センターとつながった



25

セッション2のスライドより抜粋 4

事例：こうち男女共同参画センター「ソーレ」

事例12

育成した女性防災リーダーと連携して市のマニュアルを策定

高知市

◆ 取組内容

② 男女共同参画センターで防災講座「女性防災プロジェクト」を開始

平成29年(2017) こうち男女共同参画センター「ソーレ」で、女性防災プロジェクトが開始した

- ・ 減災や防災につながる知識を学びながら、「私たちにできることを見つける」「共に活動できる仲間づくり」も併せて実施

【2020年度テーマ「私たちから防災と減災と、その先を考える」全5回開催】



講座の様子

修了生を中心に「こうち減災女子部」として活動

「こうち減災女子部」の活動

- ・ 地域で活躍する女性防災リーダーの育成
- ・ 女性による社会に向けた防災活動の発信
- ・ 高知県の災害リスクと避難生活の多様性の理解
- ・ 防災への女性参画の必要性の理解
- ・ 防災活動のアクションプランをたて、防災活動に実際に取り組む
- ・ 地域防災への取り組みを発信する
- ・ 県内防災活動のネットワーク作り



活動の様子(暮らしの安心MAP作りWS)

3 / 6

事例：川崎市男女共同参画センターすくらむ21

事例14

女性の防災人材をつなげて地域防災力を強化する取組

川崎市
男女共同参画センター
すくらむ21

◆ 取組内容

② 公募で集まった市民による「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(JKB)」の活動

【プロジェクトで大切にしていること】

- 1人ひとりが防災の主体であり続けること、自助力を高めていくために取り組むことを活動の基本にする。
- 取組を通じて、女性のエンパワメントにつなげ、地域の女性の防災リーダーを1人でも多く増やしていきたい。

活動1 防災に関する調査活動・冊子の作成

【女性の視点でつくる防災冊子 (シニア版、女子版)】平成25年3月発行



災害時に声をあげにくいとされる一人暮らしの女性を対象とした防災冊子を作成。
現在は、配布終了。



【女性の視点でつくる防災「これで安心トイレ対策編」(改訂版)】

- JKBのメンバーが、トイレに関する 防災講座を企画する際に、調査の過程でわかったことをまとめた冊子
- 水道局や環境局、各部局にも確認を取りながら進めた

【冊子ダウンロード】

すくらむ21 HP:

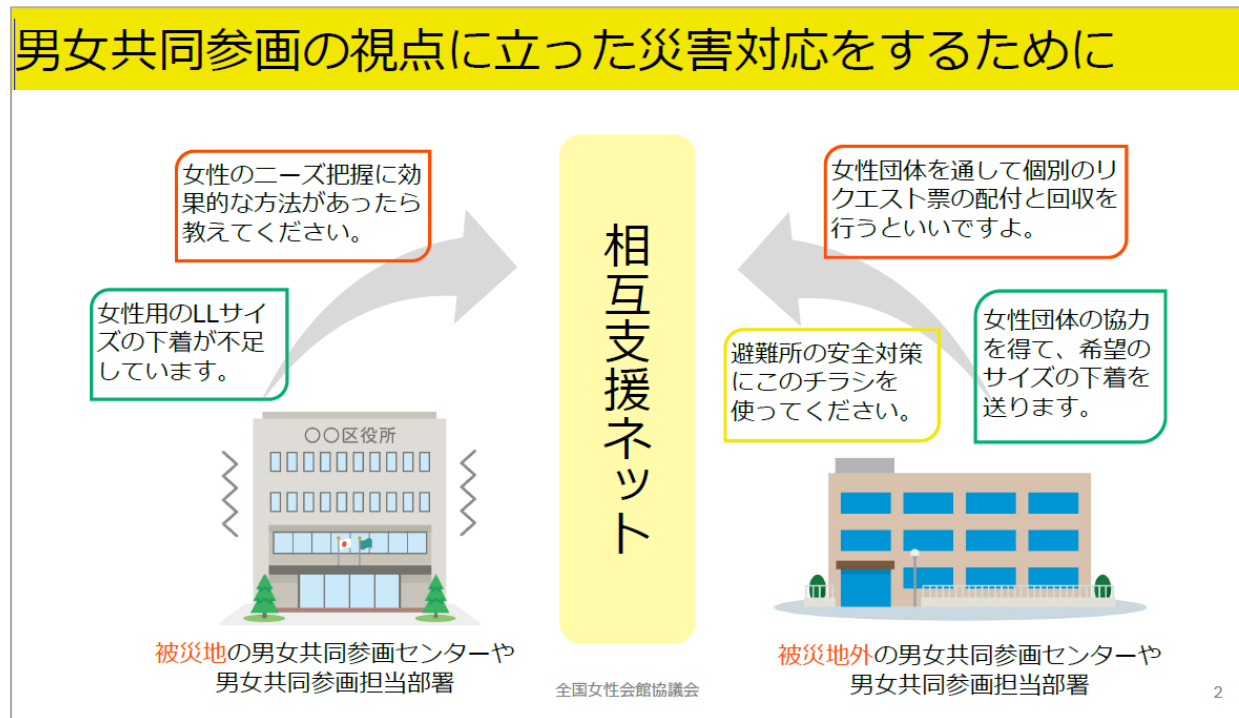
https://www.scrum21.or.jp/disaster_prevention/jkb/



3 / 7

男女共同参画センター間相互支援ネットワーク (相互支援ネット)

『相互支援ネットワーク』とは、全国の男女共同参画センターと自治体の男女共同参画担当課の共助の仕組みを強化し、平常時には災害対応に関する情報交換を行い、大規模災害発生時には、被災状況や女性のニーズについて、被災地の男女センターからの情報を本部事務局が集約・発信し、被災地の救援ニーズに応じて、被災地外の男女センターが物資・人・情報等を調達・提供する体制のこと。



全国女性会館協議会作成の説明会資料より引用

相互支援ネットについて詳しくはこちら：<https://saigai-network.j-kaikan.jp/>

事例：熊本市男女共同参画センターはあもにい

全国の男女共同参画センターからの情報をもとに、
地震発生直後から**避難所キャラバンを開始**

[避難所キャラバンの活動]

- ・ 避難所チェックシートを使った避難所環境の改善活動
- ・ 性暴力・DV防止啓発活動

など



性暴力・DV防止の啓発活動

チェックシートを使って
避難所でのヒアリング・確認

[効果]

更衣室や授乳スペースなどプライバシーに配慮した環境改善が進んだ。
女性用品の配布方法も見直された。



更衣室の「使用中」の表示を依頼



生理用品の配布方法の提案

コツ

発災後すぐに全国女性会館協議会の「相互支援システム」を利用して、全国の男女センターとつながった

事例：熊本市男女共同参画センターはあもにい

熊本市地域防災計画

令和2年度（2020年度）版（p.220 抜粋）

1 平常時における男女共同参画の視点に基づく防災対策

男女共同参画センターはあもにいは、**地域団体等を対象とした防災出前講座を開催し、男女共同参画の視点に基づく防災意識の向上を図る**ほか、主に女性や子ども、性的少数者等に配慮した環境整備に努め、必要と考えられる避難用物資を会館内に備蓄しておくよう努める。また、市が行う女性防災リーダーの育成に協力する。

2 関係機関との連携

平常時より、**男女共同参画センターはあもにいが中心となり**、市内で活動する子育て支援団体や女性団体、全国の男女共同参画センター等との連携体制を整え、正確な情報の発信や有用な情報の共有、**大規模災害時における各種団体の役割や機能の把握**を行うよう努める。

3 大規模災害時の対策

大規模災害発生時においては、文化市民局対策部により、**母子や単身女性、性的少数者等の避難者の受け入れを専門に行う避難所**として男女共同参画センターはあもにいを開設するものとする。

男女共同参画センターはあもにいは、男女共同参画の視点に基づく避難所運営について周知徹底させるため、**避難所の巡回等**を行う。

今後の男女共同参画局による取組について

- ガイドラインに基づく地方公共団体の取組状況をフォローアップ調査の結果公表（3月予定）
- 地域の防災活動における女性リーダーに関する取組事例・ノウハウ集公表（5月予定）
- 災害対応に関わる女性職員（地方公共団体の防災・危機管理、男女共同参画、福祉担当等）のつながり強化

事例：一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと

特別賞

一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと（青森県青森市）

誰一人取り残さない地域防災、ジェンダー視点を取り入れた避難所運営にはSDGsの目標がいっぱい

【取組内容】



- 中学生を対象に「ジェンダー視点を取り入れた防災教育」を展開することで、次世代の災害時における実践的な力量を形成するとともに、男女共同参画の意識向上を推進。
- 災害時のみならず、平時におけるジェンダー平等や多様性配慮への気づき、防災意識の向上、「持続可能な社会の創り手」の育成に貢献。
- 学内の取組に留めず、地域住民、自治体、教育委員会、女性消防団、防災士等を巻き込み、臨場感に富んだ模擬体験を行うことで、広範な関係者へも防災知識を普及。

【評価ポイント】

- ジェンダー平等と防災教育の両面での取組推進。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）	
普遍性	ジェンダー視点を含めた防災教育は、気候変動による世界的な災害リスクが高まる中で国内外のロールモデルとなり得る。
包摂性	広範な関係者とともに臨場感のある体験を行うことで、女性や障害者等多様な方々の参画の重要性を喚起。
参画型	地域住民、自治体、教育委員会、女性消防団、防災士等と連携し活動を展開。
統合性	災害時における女性の貢献を学ぶことで、防災知識のみならず平時からジェンダー平等の重要性を喚起。
透明性と説明責任	HPやリーフレットの作成、ワークショップ等のイベント参加で幅広く活動内容を公表。外部評価も行う。

